

2022年5月18日

横浜ゴム、岩手県の大槌学園が行う「平成の杜」での植樹を支援 累計 25,000 本を達成

横浜ゴム（株）は4月28日、岩手県上閉伊郡大槌町の大槌浄化センター敷地に隣接した「平成の杜」で、大槌町立大槌学園が「ふるさと科」授業の一環として行った植樹会に苗木提供と植樹の支援を行いました。今回の植樹会により、2012年から始まった大槌町「平成の杜」マウンドでの活動としては約25,000本、「ふるさと科」授業としては約6,000本の植樹を終え、「平成の杜」での植樹を完了しました。これまでの長年にわたる植樹活動に対し、平野公三大槌町長より感謝状が贈呈されました。

横浜ゴムは、故・宮脇昭氏（横浜国立大学名誉教授）が東日本大震災後に提唱した東北地方の太平洋沿岸に防潮林を築く「いのちを守る森の防潮堤」構想を取り入れた「鎮魂の森」づくりに賛同し、東日本大震災復興支援活動の一環として2012年にモデルケースとなる植樹会を開催したのちその森を「平成の杜」と命名しました。以来、毎年春に地元住民の方々とともに「平成の杜」植樹会を行い、2014年からは大槌学園の児童・生徒による植樹を開始。2020、2021年は新型コロナウイルス感染拡大の影響で一時中断しましたが、本年は感染防止対策のうえ大槌学園4年生の児童79名が参加し、12名の横浜ゴム社員がボランティアスタッフとして指導に当たりながら常緑広葉樹などの東北産苗木528本を植樹しました。

横浜ゴムグループは、2021年度から2023年度までの中期経営計画「Yokohama Transformation 2023（YX2023）」（ヨコハマ・トランスフォーメーション・ニーゼロニーサン）のESG経営において「未来への思いやり」をスローガンに掲げ、事業活動を通じた社会課題への貢献を持続的な企業価値向上に繋げていきます。環境課題では「カーボンニュートラル」「サーキュラーエコノミー」「自然との共生」の3つを柱とし、それぞれに中長期目標と達成に向けたロードマップを設定しています。「カーボンニュートラル」では、国内外の生産・販売拠点に苗木を植える「YOKOHAMA 千年の杜」活動などのカーボンマイナス活動と合わせて2050年に自社活動のカーボンニュートラル化を目指していきます。



植樹をする大槌学園の児童と横浜ゴム社員



平野公三大槌町長（左）と
感謝状を受け取る横浜ゴム CSR 本部の白藤太郎

このリリースに関するお問い合わせ先

横浜ゴム（株）経営企画部 広報室 担当：岡
TEL：03-5400-4531 FAX：03-5400-4570